

地域循環型「こゆきもち」の低コスト多収栽培

東北農林専門職大学附属農林大学校・稲作経営学科・小林 優希

1. 目的

最上地域では、地域全体の糯品種のシェアが10%近くある等、地域特有の品種構成となっている。糯品種を主力に位置づける生産者もいるが、品種の特性から粳品種より単収が低く、単価も安定しない等、経営に位置づけるには課題も多い。そこで、地域循環型の肥料を用いた多収栽培技術を検討した。

2. 試験内容

地域で生産されている「バイオマス液肥」を活用し、資源の地域内循環を図った上で糯品種「こゆきもち」の低コスト・多収栽培を目指す。



【バイオマス液肥散布の実演】



【移植作業】

バイオマス液肥とは、牛舎から出た排泄物を主な原料とし、発生するメタンガスを発電に利用し、その残渣から生成したもの。

3. 結果と考察

	10a当たり収量kgの対比
慣行区平均	100%
液肥区平均	111%

	10a当たり肥料費の対比
慣行区	100%
液肥区	57%

慣行区と比較すると、液肥区は収量対比で111%、肥料費は57%となり、低コストと多収が両立できた。就農後は、主食用米への活用拡大や栽培技術の向上により更に低コストと多収を目指していく。